



上／「収穫が一番の楽しみ」と笑顔を見せる福永さん

下／ジャガイモ、タマネギ、トマトなど、一年を通じて多種類の野菜が収穫されます



「野菜づくりが生きがい」という福永さんのプチ農園

わがまち散歩



福永さんが栽培したラッキョウを酢漬けに。今年もいい出来だそうです

おり、福永さんは330平方メートルの畑を数枚管理し、一年を通じて野菜や果物を栽培しています。数は少ないけれど、メロンやスイカも育っています。一角には農機具小屋や作業場、小さなビニールハウスも立てられ、もはや家庭菜園というレベルではなく、プチ農園です。「収穫した野菜は近所に配ります。みなさんが喜んでくれるのが励みになってます」と福永さんは笑って額に光る汗を拭きました。

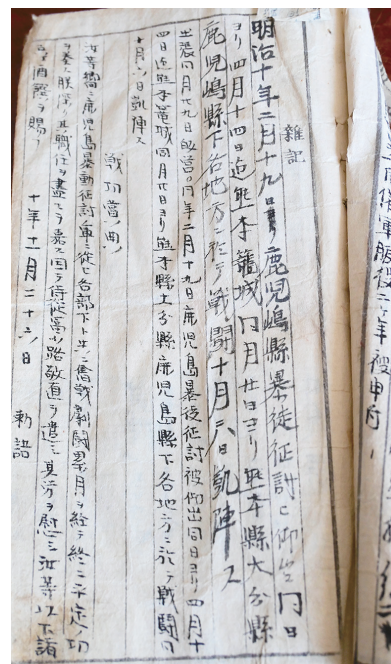
西南戦争の記録

次に訪ねたのは、西南戦争

に関わる兵士の資料を大切に保管しているという、山内英敏さんのお宅です。早速、見せていただいたのが、山内さんの曾祖父・梶平さんの兵隊手帳です。明治8年、梶平さんは農兵として安永村から数人選出されたうちの一人として官軍に入隊。兵隊手帳にはこう記されています。

「明治10年2月19日 鹿児島県暴徒征伐（薩軍との戦い） その日から4月14日まで熊本籠城 同月20日より熊本県、大分県、鹿児島県などの各地にて戦闘。10月28日に凱陣する」 たった数行の記録ですが、そこには生々しい戦いの光景が浮かび上が

山内さんの曾祖父が残した兵隊手帳。薩軍撤退の様子などが記されています



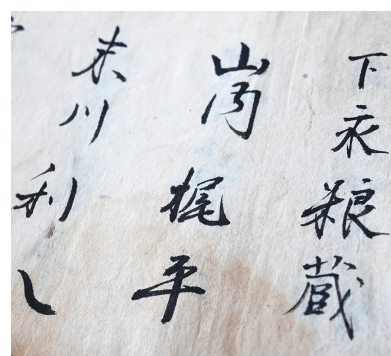
つてきます。西南戦争当時、益城町は薩軍の鹿児島への退却路の一つとなりました。薩軍が木山地区内に本営を設置したことで、赤井川における戦いを始め、町内でも激戦が繰り広げられたと伝わっています。梶平さんの兵隊手帳を何度も読み返している山内さんの想像によると、「この記録は兵士たちの手帳に上官が記したものと考えられますね。農兵として参戦した曾祖父が報酬金として15円を賜ったという記録も残っています。当時の金額にすると家を建てる資金の一部にできるくらい額の多かったようです」と教えてくださいました。



山内家の庭にはハーブや花々が咲き誇っていました



兵隊手帳について教えてくれた山内さん



大隊名簿の中に「山内梶平」と名前が記されていました